

伊勢湾環境保全型ノリ養殖推進事業

岩出将英・坂口研一

目的

三重県の黒ノリ養殖生産の安定化を図るために、生産者に対して養殖環境についての情報提供や病害等の対策を指導するなど、きめ細かな対応が求められている。そこで黒ノリ養殖漁期中において、ノリ漁場栄養塩調査およびプランクトン調査を実施し、その結果を迅速に生産者へ発信するとともに、その後の対応策等についての情報を提供した。

方法

1. 今漁期の気象の特徴について

気温、降水量、日照時間については、津地方気象台発表のデータ(1971～2009)を用いた。

2. 今漁期の海況の特徴および養殖経過について

水温については、三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室が実施している午前 10 時における鈴鹿市白子港の水温測定データ(1998～2009)を用いた。また、黒ノリ漁期中の栄養塩濃度の推移、プランクトンの発生状況については、鈴鹿水産研究室が実施している伊勢湾 23 主漁場における水質分析データを用いた。

3. 共販結果について

三重県および全国における共販結果については、三重県漁業協同組合連合会発表の共販結果と全国漁連のり事業推進協議会発表のデータを用いた。

結果

1. 今漁期の気象の特徴

津地方気象台の観測値によると、10月の平均気温は19.1℃と高め、11月は12.7℃と平常並み、12月は8.4℃と高めで推移した。1月は5.8℃と高め、2月は7.6℃とかなり高めで推移した。10月の積算降水量は123.5mm、11月は77.5mmと平常並みで推移し、12月は17.5mmと少なめとなった。1月は141.0mmとかなり多め、2月は74.0mmと平常並みで推移した。10月の積算日照時間は150.7hと少なめ、11月は157.9hと平常並み、12月は187.0hと多めで推移し、1月は153.1hと少なめ、2月は165.0hと多めで推移した(表1)。

2. 今漁期の海況の特徴

白子地先の水温は、10月初旬はかなり低めで推移したものの10月中旬から下旬にかけて高め、11月は平常並み、12月はやや高めで推移した。1月は概ね低めで推移し、2

月3月は高めで推移した(図1)。比重は、10月から12月にかけて概ね高めで推移したが、1月から2月中旬にかけて概ね平常より低めで推移した。漁期を通して大きな出水もなく、比較的安定した状態で推移した(図2)。

溶存無機窒素は、12月まで概ね100μg/L以上(桑名地区を除いた伊勢湾のノリ漁場の平均値)で推移し、1月以降も色落ちを引き起こす指標となる30μg/Lを上回る濃度を維持しながら推移した。リン酸態リンについても、漁期中5μg/L以上を維持しながら推移した(図3)。

プランクトンについては、局所的に、小型珪藻プランクトンのやや高密度な発生があったものの赤潮レベルの発生は観察されず、長期的な色落ち被害が起きることはなかった。

表1. 平成20年度月別観測平均値と平常値

津	気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(h)	
	本年	平常	本年	平常	本年	平常
10月	19.1	17.7	123.5	139.0	150.7	160.8
11月	12.7	12.3	77.5	89.2	157.9	156.1
12月	8.4	7.4	17.5	34.4	187.0	169.7
1月	5.8	5.1	141.0	41.0	153.1	163.9
2月	7.6	5.1	74.0	61.3	165.0	154.6

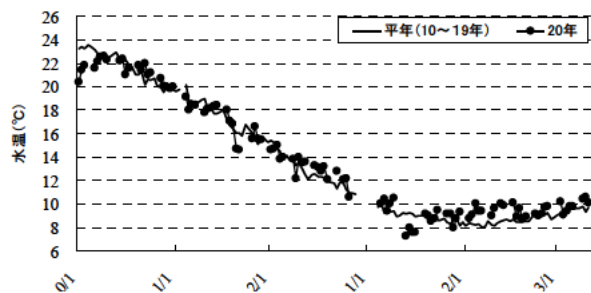


図1. 平成20年度ノリ漁期の白子地先の海水温の推移

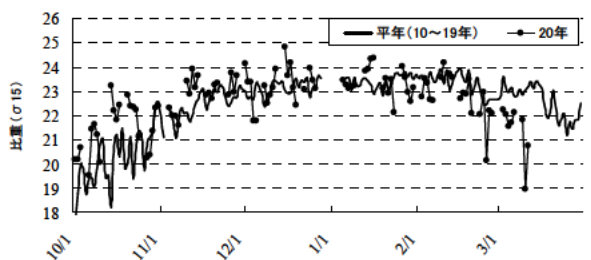


図2. 平成20年ノリ漁期の白子地先の海水比重の推移

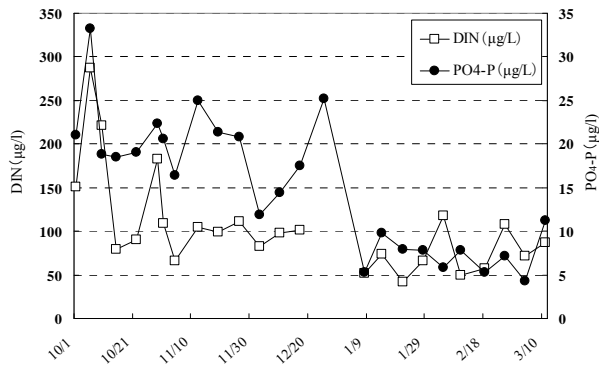


図3. 栄養塩の推移（桑名地区を除く）

3. ノリ養殖経過

今漁期は、平年よりも速いペースで水温が順調に低下した。育苗は昨漁期同様に順調に行われ、各地とも健全度の高い種網の確保ができた。昨漁期は、プランクトンの発生・長期化による栄養塩の低下、重度の色落ち被害が発生し、生産を一時見合わせる漁場もあったが、今漁期においては一時的な色調低下があったものの、長期化することもなく定期的な降雨と時化にともなう栄養塩の補給により短時間で色調回復が見られた。鳥羽地区では、漁期を通じて食害に悩まされた漁場もあったが、伊勢湾全体においては、大きな被害発生もなく、3月下旬まで生産を続ける漁場が見られるほど近年ではめずらしい非常に海況に恵まれた漁期であったと言える。

4. 共販結果

当初、20年度漁期においては合計9回の共販の開催が予定されていたが、育苗期以降の海況が良好に推移したこともあり、12月2日に臨時共販が開催され、鈴鹿地区

以南の漁場から出品があった。枚数は252万枚と少なかつたものの、平均単価は1,474円、合計金額は3,700万円であった。

年内生産について昨漁期と比較すると、生産枚数では4千303万枚と約6%減少したが、平均単価は1088円と約32%増であったため、生産金額は4億6千815万円と約25%増加した。

平成20年度漁期は、最終共販が4月17日に開催され、生産枚数は、前年度比113%の約3億3百万枚、生産金額は、前年度比124%の25億6千万円であった。平均単価は、前年度比110%の842円であった。漁期後半にあたる3月においても、下物価格が安定していたため、伊勢湾各地で生産が続けられた。

全国における今漁期の出荷枚数は約90億8,900万枚と対前年比で約5%増であった。平均単価は、8円80銭となり、前年度に比べ10銭下回った。

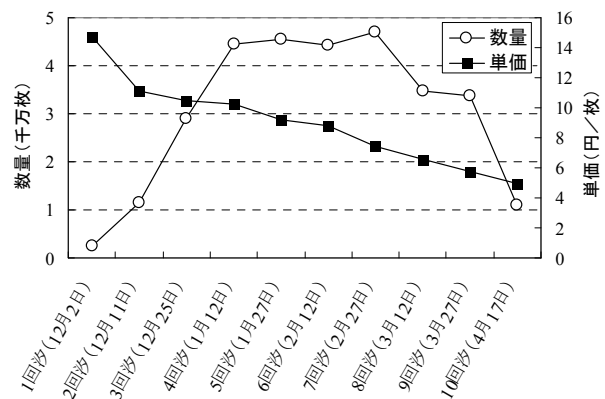


図4. 汐別生産枚数と単価の推移